

● ICSU及びISSC合併後の新組織設立総会の
招致に関する検討委員会運営要綱（案）

平成29年〇月〇〇日
日本学術会議第〇〇〇回幹事会決定

（設置）

第1 ICSU（国際科学会議）及びISSC（国際社会科学評議会）合併後の新組織設立総会の招致に関する検討委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第25条第1項に基づく委員会として幹事会に附置する。

（任務）

第2 委員会は、ICSU及びISSC合併後の新組織設立総会の招致に関する事項について審議を行う。

（組織）

第3 委員会は、会長、副会長（日本学術会議会則第5条第3号担当）及び会員又は連携会員20名以内をもって組織する。

（設置期限）

第4 委員会は、平成29年9月30日まで置かれるものとする。

（庶務）

第5 委員会の庶務は、事務局各課・参事官の協力を得て、事務局参事官（国際業務担当）において処理する。

（雑則）

第6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

○委員の決定（新規1件）

（ICSU及びISSC合併後の新組織設立総会の招致に関する検討委員会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
大西 隆	豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授	会長 第三部会員	
花木 啓祐	東洋大学情報連携学部教授	副会長 第三部会員	
井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授	副会長 第一部会員	第一部
杉原 薫	総合地球環境学研究所特任教授	第一部会員	第一部
小泉 潤二	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 監事、大阪大学名誉教授	連携会員	第一部
藤原 聖子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員	第一部
春日 文子	国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー	連携会員	第二部
巽 和行	名古屋大学名誉教授、名古屋大学物質科学国際研究センター特任教授	連携会員	第三部
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター副所長・教授	第三部会員	第三部
安浦 寛人	九州大学理事・副学長	第三部会員	第三部
山形 俊男	国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ特任上席研究員、東京大学名誉教授	連携会員	第三部
青木 玲子	公正取引委員会委員	特任連携会員	副会長
齋藤 安彦	日本大学総合科学研究所教授	特任連携会員	副会長
宮本 一夫	九州大学副学長・付属図書館長・文書館長	特任連携会員	副会長

※特任連携会員の任命については、提案 21 参照。

【委員会及び分科会】

○委員の決定（追加 1 件）

（社会学委員会社会福祉学分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
保正 友子	立正大学社会福祉学部教授	連携会員

地区会議運営協議会委員の追加の決定について

○中部地区会議運営協議会委員の追加について（追加委員）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
松宮 徹	金沢大学大学院自然科学研究科客員教授	第三部会員

※追加後の運営協議会委員数：12名

【参考】

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（地区会議運営協議会及び事務局）

第6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

2 各地区に所属する会員は、互選により9名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は12名を超えないものとする。

日本学術会議協力学術研究団体への新規申込みがあった団体の概要

	団体名	概 要
1	画像関連学会連合会	<p>画像諸分野における学協会活動に関する相互の情報連絡の便宜を図り、連合会活動及び共同活動を通して画像科学諸分野における学術研究の向上発達を行うことで画像技術の発展を促し、併せて社会に貢献する。</p>

5. シンポジウム等（第23期中の開催）

提案14

公開シンポジウム「若者支援政策の拡充に向けて—提言を踏まえた議論—」
の開催について

1. 主催：日本学術会議社会学委員会社会変動と若者問題分科会
2. 共催：未定
3. 後援：未定
4. 日時：平成29年8月19日（土）13:00～17:00
5. 場所：東京大学山上会館大会議室
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

本分科会は、平成29年7月4日に提言「若者支援政策の拡充に向けて」を公表した。この提言を広く世に問うとともに、その内容を改めて吟味し、より一層の若者支援政策の具体化のために必要な課題について、若者支援の従事者や若者自身の参加により議論を深める。

8. 次第：

13:00 シンポジウムの趣旨説明

堀 有喜衣（日本学術会議特任連携会員、独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員）

13:10 若者の貧困について

阿部 彩（日本学術会議連携会員、首都大学東京都市教養学部教授）

13:40 若者の社会的排除について

宮本 みち子（日本学術会議連携会員、放送大学教養学部教授）

14:20 提言の紹介

本田 由紀（日本学術会議第一部会員、東京大学教育学研究科教授）

14:40 休憩

15:00 パネルディスカッション

（司会）本田 由紀（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

大西 連（認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長、新宿ごはんプラス共同代表）

鈴木 晶子（一般社団法人インクルージョンネットかながわ代表理事）

原田 仁希（首都圏青年ユニオン執行委員長、エキタスメンバー）
阿部 彩（日本学術会議連携会員、首都大学東京都市教養学部教授）
宮本 みち子（日本学術会議連携会員、放送大学教養学部教授）

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者等は主催分科会委員）

公開シンポジウム「パリ協定の下での長期温室効果ガス排出削減戦略を考える」の開催について

1. 主催：日本学術会議 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会
2. 共催：一般社団法人エネルギー・資源学会
3. 後援：一般社団法人日本エネルギー学会（他、調整中）
4. 日時：平成29年9月27日（水）13：00～17：25
5. 場所：日本学術会議講堂 外1室
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：2015年パリで開催された第21回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）において、2020年以降の気候変動対応の国際枠組みとなるパリ協定が合意された。パリ協定では、全球平均気温上昇を産業革命以前比で2℃未満に十分に抑える、また1.5℃未満も追求する、さらには21世紀後半に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、などの目標も合意された。そして、2020年までに自国の「長期低排出発展戦略」を作成・提出することが定められた。環境省、経済産業省はそれぞれ、関連する検討会を立ち上げ検討が行われてきた。それらの検討結果やさらには米国トランプ政権のパリ協定離脱といった国際政治動向も踏まえながら、我が国の今後の「長期低排出発展戦略」のあり方とその実現に向けた方策について、より良い理解を進めることを目的として、本シンポジウムを開催する。

8. 次第：

- 13：00 開会あいさつ
鈴置 保雄（日本学術会議第三部会員、愛知工業大学工学部教授、名古屋大学名誉教授）
- 13：05 パリ協定を踏まえた長期目標と国内での議論の動向（課題提起）
山地 憲治（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構理事・研究所長、東京大学名誉教授）
- 13：35 気候変動予測、影響、リスク管理
 江守 正多（日本学術会議連携会員、国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室 室長）
- 14：05 グローバルな視点での大幅排出削減
秋元 圭吾（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構システム研究グループリーダー）
- 14：35 長期地球温暖化抑制におけるイノベーションの役割
 杉山 大志（キャノン株式会社グローバル戦略研究所上席研究員）
- 15：05 カーボンプライシングとグリーン成長
 有村 俊秀（早稲田大学政治経済学術院教授）

15：35－15：50 （ 休憩 ）

15：50 総合討論

（司会）山地 憲治（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構理事・研究所長、東京大学名誉教授）

（コメンテーター）

有馬 純（東京大学公共政策大学院教授）

江守 正多（日本学術会議連携会員、国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室 室長）

秋元 圭吾（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー）

杉山 大志（キャノン株式会社グローバル戦略研究所 上席研究員）

有村俊秀（早稲田大学政治経済学術院教授）

17：20 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「社会協働と地域社会における未来社会ビジョン創成への挑戦」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会環境科学分科会、化学委員会・総合工学委員会・
材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 29 年 9 月 5 日（火）13：00～17：00
5. 場 所：西之表市民会館
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：国内外において、分野を問わず、先端的な研究成果と社会的な課題解決との間を繋ぐ何らかの新たな仕組みを作ることが重要視されている。しかし、大学が生み出す知識・技術と企業ニーズや社会ニーズとの間に生じるかい離を埋める取り組みは必ずしも十分には機能しておらず、その方法論は、未だ模索段階にある。そのためには、ビジョン・オリエンテッド・リサーチの具体的事例の累積と、方法論の構築が重要となる。また、地域社会の将来ビジョンを作りあげるのは、本来その自治体と住民であるが、それに必要な「技術の社会への影響」に関する情報は必ずしも十分に与えられていない。地域社会に適合した複数のシナリオを自治体と住民と共に考え、システムを設計してアセスメントした結果を客観的・定量的に提供し、自治体と住民に分かりやすく選択肢を提示する「技術の見える化」と協働メカニズムの確立が重要であり、地域におけるシンポジウムの開催に加え、地域の基幹産業についても配慮した研究とそのコミュニケーションが必須である。本シンポジウムでは、種子島での先進的な取り組みを一つの例として議論したい。

8. 次 第：

13：00 開会挨拶

大政 謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

13：10 講演「社会協働と地域社会における未来社会ビジョン創成（仮）」

阿尻 雅文（日本学術会議第三部会員、東北大学材料科学高等研究所教授）

13：30 講演「ライフスタイル・シナリオの構築と協同」

青柳みどり（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター環境計画研究室長）

14：00 講演「種子島における産学公民の連携への取り組み」

菊池 康紀（東京大学総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座化学システム工学専攻特任准教授）

14：30 講演「自治体が描く種子島の未来社会ビジョンと取組（仮）」

岩下 栄一（西之表市役所経済観光課課長補佐）（予定）

15 : 00—15 : 15 (休憩)

15 : 15 講演「製糖工場とサトウキビ産業の改革 (仮)」

杉本 明 (サトウキビコンサルタント)

15 : 30 講演「熱中症アラーム開発 (仮)」

山川 俊貴 (熊本大学大学院先導機構助教)

15 : 45 講演「安納芋非破壊評価 (仮)」

加納 学 (京都大学大学院情報学研究科システム科学専攻教授)

16 : 00 講演「廃食用油の高品質燃料化を実現する新製造技術の導入 (仮)」

松岡 拓郎 (NPO 法人こすも副所長)

16 : 15 総合討論

(司会) 福島 康裕 (東北大学大学院工学研究科准教授)

(コメンテーター) 講演者 8 名

16 : 55 閉会挨拶

藤田 照典 (日本学術会議第三部会員、三井化学株式会社シニア・リサーチフ
エロー、特別研究室長)

17 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「次世代エネルギー社会の超低炭素化に向けた課題とチャレンジー温室効果ガス 80%削減のフィージビリティとリアリティについて考えるー」の開催について

1. 主催：日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、公益社団法人化学工学会
2. 共催：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー資源学会、公益社団法人日本伝熱学会
3. 後援：なし
4. 日時：平成 29 年 9 月 14 日（木）13：30～17：45
5. 場所：日本学術会議講堂（他 2 室）
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：昨年 3 月に「地球温暖化対策計画」の政府原案が示され、国際連合に提出している「2030 年度に 2013 年度比で温室効果ガス 26%削減」に加えて「2050 年に 80%削減」の長期目標が表明された。温室効果ガス（GHG）80%削減は、現在の技術水準の延長線上の進展では達成不可能な課題であり、80%削減という目標と現状を外挿した将来像とのギャップを埋める劇的な変化が要求される。これに対して、目標達成に必要な技術オプション、環境と国内経済との両立、環境技術の国際展開による地球規模での温暖化防止への貢献、国内外の環境・エネルギー政策など、議論を深めてゆかなくてはならない課題は多岐にわたる。本シンポジウムでは、超低炭素社会へ向けた技術や政策についての講演とパネルディスカッションを行い、それらの実現可能性（フィージビリティ）と様々な現実の制約条件を考慮した上で可能性（リアリティ）について考える。
8. 次第：
 - 13：30 開会挨拶
阿尻 雅文（日本学術会議第三部会員、東北大学材料科学高等研究所教授）
 - 13：35 趣旨説明
藤岡 恵子（日本学術会議連携会員、株式会社ファンクショナル・フルイッド代表取締役）
 - 13：50 講演「エネルギーセキュリティの視点から捉える低炭素化への課題（仮）」
小宮山涼一（東京大学工学系研究科附属レジリエンス工学研究センター准教授）
 - 14：20 講演「80%GHG 削減とその先への道筋～技術的実装可能性から考える選択肢」
古山 通久（九州大学稲盛フロンティア研究センター教授）
 - 14：50－15：05 （ 休憩 ）
 - 15：05 講演「自然変動電源の大量導入に伴う課題克服の方向とその評価（仮）」

中垣 隆雄（早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

15：35 講演「80%GHG 削減に向けたイノベーション（仮）」

杉山 昌広（東京大学政策ビジョン研究センター准教授）

16：05－16：15 （ 休憩 ）

16：15 パネルディスカッション

（司会）藤岡 恵子（日本学術会議連携会員、株式会社ファンクショナル・フル
イッド代表取締役）

（コメンテーター）梶川裕矢（東京工業大学大学院イノベーションマネジメント
研究科准教授）

他2名程度登壇予定（調整中）

17：40 閉会挨拶

藤田 照典（日本学術会議第三部会員、三井化学株式会社シニア・リサーチフ
ェロー、特別研究室長）

17：45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「AI・イノベーションに向けた社会連携」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会、若手アカデミー運営分科会

2. 日 時：平成 29 年 9 月 11 日（月）13：30～16：30

3. 場 所：日本学術会議 6-C（1、2、3）会議室

4. 分科会の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

ICT の高度化・インテリジェント化が止まるところを知らない。2045 年にはコンピュータの能力が人間を超え、技術開発と進化の主役が人間からコンピュータに移る特異点(シンギュラリティ)に達するとも議論されるなど、その処理能力は加速度的に高まっている。また、IoT やヒトに係る情報を含む各種センシング技術の進化によって、無限と言って過大でない多種多様な情報が収集活用されるようになっている。ビッグデータ、人工知能、ロボット等を通じて、既に私たちはこれら技術の恩恵を既に受け始めている。しかしこれらは始まりであり、十年後、二十年後には、今の私たちには SF とも思われる世界が広がっている可能性がある。

この技術進歩は、社会をどのように変えていくのであろうか。新たな世界において、機械と人間の関係はどのように変化していくのか。私たちが新たな技術を使いこなすためには、何を考えておく必要があるのか。また、この技術進歩の中で主要プレイヤーの立場を確保しようとする動きが、欧米そしてアジア各国において官民を問わず進んでいる。これまで ICT 分野において世界をリードしてきた我が国が、この変化に正面から向き合い、更なる高みを求めていくためには何が必要か。このような問題意識を背景に、本シンポジウムを開催する。シンポジウムにおいては、所属・分野の壁を越えて議論することで、これらの発展を総合的に展望するとともに、関連分野における我が国の国際競争力強化のあり方も含め、課題の整理と今後の取組に係る提言を行うこととする。

6. 次 第：

総合司会：林 秀弥（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科教授）

13:30 【シンポジウムの開催にあたって】

吉田 丈人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科准教授）

第一部【基調講演】

13:40

福田 雅樹（総務省情報通信政策研究所調査研究部長）

「AI ネットワーク化の展望と課題」

14:10

鹿島 久嗣（京都大学大学院情報学研究科教授）

「広がる機械学習とその応用」

14:40-14:50 休憩

第二部【パネルディスカッション】

14:50

司会：

吉田 丈人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科准教授）

パネリスト：

福田 雅樹（総務省情報通信政策研究所調査研究部長）

鹿島 久嗣（京都大学大学院情報学研究科教授）

赤池 伸一（NISTEP 科学技術予測センターセンター長）

茅明子（JST 社会技術研究開発センターアソシエイトフェロー）

日本学術会議若手アカデミー委員数名（調整中）

16:20【閉会の挨拶】

隠岐 さや香（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授）

16:30 閉会

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

6. シンポジウム等（第24期開催）

※第24期に会員・連携会員であると考えられる者が複数名、挨拶・講演することが要件。
（また、第24期冒頭にて主催分科会等を早急に設置すること。）

提案19

日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会
「地域共生社会実現に向けての大学と地域の取り組み」の開催について

1. 主 催：日本学術会議中国・四国地区会議、徳島大学大学院医歯薬学研究部
2. 共 催：徳島大学、徳島大学歯学部、徳島県、徳島市、徳島新聞、四国放送、NHK 徳島支局
3. 後 援：NPO 法人徳島医学研究・教育支援機構 四国歯学会 徳島県地域包括ケアシステム学会、徳島県歯科医師会 徳島市歯科医師会
4. 日 時：平成29年11月18日（土）14:00～16:35
5. 場 所：徳島大学 藤井節郎医科学記念センター大ホール（徳島県徳島市）
6. 開催趣旨：
超高齢化が進む我が国において、地域共生社会の実現に地方大学の貢献が求められている。本講演会では、これまで真理探究や学術形成が中心的な役割であった大学における地域共生社会対応の現状や問題点、および将来の展望について議論を展開し、学術の成果を国民に還元することを目的とする。
7. 次 第：
 - (1)開会挨拶
14:00～14:05 苛原 稔（徳島大学医歯薬学研究部長）
 - (2)挨拶
14:05～14:10 日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事
日本学術会議会長（予定）
徳島大学長（予定）
 - (3)基調講演（座長：曾根 三郎（日本学術会議連携会員、徳島市病院局病院事業管理者））
14:10～14:50 秋山 弘子（日本学術会議連携会員、
東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、
「日本の社会における超高齢化の現状と問題（仮題）」）
14:55～15:00 休憩

(4) シンポジウム 「超高齢社会における地方大学の役割と学術形成」

(座長：市川哲雄 (日本学術会議連携会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授))

15:00～15:05 市川哲雄 (日本学術会議連携会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

15:05～15:35 佐々木卓也 (徳島大学理事 研究担当)
「地方大学の役割と学術形成」

15:35～15:55 吉田敦也 (徳島大学地域創生センター長)
「地方大学の役割と学術形成」

15:55～16:15 白山靖彦 (徳島大学医歯薬学研究部教授, 口腔保健)
「徳島県地域包括ケアシステムの構築」

16:15～16:30 ディスカッション

(5) 閉会挨拶

16:30～16:35 河野文昭 (徳島大学歯学部長)

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

※申請理由

・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる (今期中国・四国地区会議の構成員から、23-24 期連携会員の市川哲雄氏がシンポジウムの座長として参加するとともに、来期中国・四国地区会議代表幹事が冒頭で挨拶することを予定している)。

第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事 観山 正見